

## 「蓮華」

静岡県 せきうんいん 積雲院住職 すずき がじゅ 鈴木雅樹

私がお護りしているお寺では、毎年6月から8月にかけて蓮が見事な華を咲かせてくれます。

仏教では、泥中にあってもその泥に染まらず清らかな華を咲かせてくれる蓮華を、煩惱に満ちたこの娑婆における清浄な悟りの境地を表すシンボルとして、昔から大切にしてきました。

私は毎年この蓮の華を見ると、1人の女性を思い出します。この女性は、夫と一緒にやっとの思いで手に入れたマイホームを、保証人になった知人の借金の為に手放すことになったばかりか、夫をその心労によって亡くされました。それでも、小さいお子さん二人を抱え、朝から晩まで仕事に育児に追われながら、立派に子ども達を育て上げました。しかし、大切に育て上げたご長男は、就職後しばらくして脳梗塞で倒れ、数カ月の闘病生活の後、亡くされました。このような苛酷な人生にもかかわらず、顔を合わせれば、いつも穏やかな笑みをたたえ「こんにちは」と挨拶を交わされ、また、学校や地域の役員も、推されれば嫌な顔ひとつせず引き受け、しっかりとその責を全うされておられました。

「苦」とは苦しみではなく、思い通りにならないことであり、思い通りにならない「苦」を思い通りにしようとするその心に「苦しみ」が生まれます。

たくさんの苦を経験された彼女は、その苦を苦しみにすることもあったでしょう。しかし、決してその苦しみにとらわれることなく、他人の苦しみや悲しみに寄り添う心の糧とすることによって、いつも穏やかな笑みをたたえることが出来るようになったのだと思います。まるで、泥中にあってもその泥に染まらず清らかな華を咲かせる蓮のように。